

民間支援まちづくりファンド 活動紹介

事業名

史跡再建による地域コミュニティの活性化

1. 活動の目的

1. 地震災害除けの守り神である、要石神社と新規建立した石碑の維持管理
2. 史跡整備をきっかけとした、地域コミュニティによる保全体制の構築と、他の史跡と連携した、取り組みの発信

2. 活動を始めた経緯

【担当者：村越さんより】

取り組みのきっかけは、要石神社の案内板が、設置から20数年経過し、老朽化してしまい、説明書きが不鮮明な状況となっており、何とかしなければとの思いから、まちづくりファンドの助成を受けて、案内表示板の石碑を建立しようと、今回の取り組みに至りました。

祭りの主体となる地域コミュニティについても、人口減少や単身世帯の増加を起因とした、希薄化が進展し、文化を継承する住民が減少していることから、神社の整備を進めることで、地域交流の拠点としての活用を考えました。



〈整備前の要石の表示案内板〉

4. この活動を通じてつながることができた方々

◎各公立図書館【静岡県立中央図書館・沼津市立図書館】

◎各公立学校【浮島小・浮島中・原小・原中・原東小】

一本松の史跡を改めて見直し、杜の会が編さんした冊子「一本松のだから」を贈呈しました。



◎チーム：絆の森いっぽんまつ

構成メンバーは、杜の会と一部重複している方もいますが、主に月2回一本松エリアの下草刈り作業を実施している団体です。

コロナ禍前は、地元企業も活動に参加をいただいていたのですが、企業の参加見合わせにより現在は規模を縮小して実施されています。

◎静岡県庁環境ふれあい課

静岡県が実施する「森づくり県民大作戦」にエントリーし、県との協働により森づくり活動を行っています。

団体概要

- 団体名 一本松 杜の会 (会員13名)
- 代表者 大橋 勝彦
- 活動場所 一本松 要石神社
- ホームページ なし

3. 活動内容

1. ～助成時の活動について～【平成30年度：ステップ'アップ'型】



〈一本松のだから〉

- ・一本松史跡の拠点である要石神社の表示板（石碑）の建立
- ・冊子「一本松のだから」を作製し、沼津市、各小中学校へ贈呈、市役所での紙芝居の披露

2. ～助成から現在までの活動について～（令和4年12月現在）

◎杜の会では、毎月27日を定例作業日として、会員メンバー13名で、一本松エリアに残る史跡を中心とした保全・管理を行っています。

◎外で出て、地域住民同士でコミュニケーションをとるきっかけになり、コロナ禍でも月1回の活動を継続しています。



〈定例の清掃活動 10/25撮影〉

5. この活動を通じた効果や成果について

◎史跡の整備に伴い、周辺の清掃や施設の整備を定期的に進めたことで、以前は見通しが悪くて利用者も少なかった一本松でしたが、訪れる方に安心・安全が提供できるようになりました。駐車場やベンチを設置したことで利用者が目に見えて増え、あまりいいことではありませんが、以前はなかった糞尿泥棒まで現れるほどになりました。

◎静岡県立中央図書館などの公共施設から、活動に関する問い合わせがあり、取り組みの経過や一本松の歴史をまとめ「一本松のだから」を贈呈し、多くの方に知っていただく機会が持てました。

◎自分たちが住んでいるまちをきれいにしようという気持ちが芽生え、継続するモチベーションになっています。ここまで継続できていることが、何よりの証拠です。コロナ禍でも毎月27日に行う活動として、継続していきます。

6. 今後の活動について

◎今後はまず、現状維持を基本としています。メンバーは60代中心で始めた活動ですが、ほぼ70代になっています。ベテランの方が勇退して以降、新しいメンバーが増えていけませんので、次の世代にどうつなげていくかが課題です。メンバー加入に向けて、段取りは進めていますが、日中働いている方もいるため難しいのが現状です。

◎杜の会主催でこれまで実施していた、1月1日の初詣祭を3年ぶりに企画していますので、これを機にコミュニティ活動がまた再開されていくことを期待しています。